

山梨中央銀行は、大学等の研究機関が保有する技術シーズと企業ニーズを結びつけ、新技術の開発や新規事業の創出を支援するリエゾン（橋渡し）活動に取り組んでいます。

本リポートでは、山梨大学の先生とその研究内容を紹介していきます。本リポートが、中小企業のみなさまが抱える経営課題の解決や新産業創出の“ヒント”となり、ビジネスチャンスにつながればと考えております。

＜第12回＞



「アート」で街を活性化 ～人間の美的感性を刺激する～

井坂健一郎先生（教育人間科学部 美術教育講座 助教授）

■主に空間表現をされているとお伺いしましたが

現在、主に取り組んでいるのは、「インスタレーション」と呼ばれる空間全体を作品として表現する芸術です。インスタレーションというと聞きなれない方も多かもしれませんが、特定の場所や地域の特性などを活かした、その場でしか成立しない芸術表現のことを指します。

身近な例をあげると、自宅の家具やカーテンを選んだり配置する場合に、どれが相応しいかと考えることもインスタレーションといえるかもしれません。そういった意味では、インスタレーションは、日々の生活のなかにおいて誰もがに行っている身近な芸術のひとつとっていただけないのでしょうか。

■特に力を入れている表現方法がありますか？

シースルー素材を利用した表現に力を入れており、アーティストとして個展なども開いています。シースルー素材の魅力は、素材を通して向こう側を見ることができることであり、シースルー素材の介在によって既存の空間にまったく違った印象を与えること、つまり、空間の価値観を変えることが可能となります。最近では、アートから実生活への展開にも取り組んでおり、シースルー素材を活かした住空間のデザインなども行っています。

■インスタレーションは、どのような分野への展開が考えられますか？

空間を表現するという意味で、インスタレーションの展開の究極形のひとつとして“まちづくり”をあげることができると思います。アートを取り入れた“まちづくり”の最近の例として立川駅北口の再開発があげられます。ベンチや車止め、街灯など国内外のアーティストによる地域にちなんだ作品が街中に多数配置されており、アートな空間を形成しています。

私も、2年程前から県内のある地域の住民から依頼を受けて、“まちづくり”に取り組んでいます。それは、街並み全体をデザインしようとするもので、観光客や住民が昼夜を問わずに楽しめる街を目指しています。そのなかで、地域資源を活かした道路や街並みのデザインなどを提案しています。

■アートを取り入れた“まちづくり”において大切なことは何でしょう？

“まちづくり”にアートを取り入れる場合、固定的な概念を押し付けるものではなく、個々人が持っている美的な感性を刺激すると同時に居心地のよいものであることが大切だと考えています。アーティストの概念が色濃く表現されたアート作品は、一時的に人に与える影響は大きいのですが、居心地がよいものでなかったり、街並みから浮いてしまう例が多く見られます。

住んでいる人が愛着を持つことができる居心地のよいアート空間を創りあげることができれば、観光客もまた、その街を再び訪れたいと感じるようになると思います。

■今後の活動予定と、地域連携の可能性について教えてください。

現在、他県から新しい“まちづくり”のお手伝いの話をいただいております。インスタレーションの発想や視点から、その地域に相応しい提案をしていきたいと考えています。

また、インスタレーションによる表現だけではなく、雑誌や書籍の装丁、シンボルマークのデザイン、商品のディスプレイなども自身の表現活動の対象としておりますので、各種デザインに関して、ご質問などがあればお気軽にご相談ください。

各種デザイン、アート、“まちづくり”等についてご相談がある方は、
山梨中央銀行 公務部 公務 地域開発室
TEL：055-224-1091 まで、お気軽にご連絡・ご相談ください。